

経験年数 3 年看護師の

暴力リスクのある患者への対応の意図を明らかにする

川瀬美幸^{1)*} 坂口幸恵¹⁾ 清水一志¹⁾ 高橋晃¹⁾ 田中舞¹⁾ 和田由貴子¹⁾ 高間さとみ²⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 8 病棟

2) 鳥取大学医学部保健学科看護学 地域・精神看護学講座

Intentions of nurses with three-year clinical experience when managing patients

with a higher risk of violence

Miyuki Kawase¹⁾, Yukie Sakaguchi¹⁾, Kazushi Shimizu¹⁾, Akira Takahashi¹⁾

Mai Tanaka¹⁾, Yukiko Wada¹⁾, Satomi Takama²⁾

1) The 8th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing Care Environment and Mental Health, School of Health Sciences,
Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: byoutou11@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

本研究の目的は、経験年数 3 年看護師（看護師経験年数、精神科経験年数共に、3 年の看護師）の暴力リスクのある患者への対応の意図を明らかにすることである。研究方法は、看護師 2 名を対象に、ロールプレイと聞き取りを行い、収集したデータを質的に分析した。その結果、36 のコードと 11 のサブカテゴリー、3 のカテゴリーを抽出した。椅子に座り患者の話を聞くという行動は患者との対決を避け、【患者に寄り添う意図】があった。患者の怒りを助長させないように、また、怒りを落ち着かせるように、【患者の怒りをコントロールする意図】を持って冷静に対応していた。患者との距離を空けることは、患者背景の理解ができていないこともリスクとなることを認識しつつ、攻撃を回避し、暴力を受けないように【自分の身を守る意図】を持っていた。経験年数 3 年看護師は、暴力リスクのある患者へ意図を持ち対応していたことが明らかとなった。鳥取臨床科学 9(2), 103-108, 2017

Abstract

This study examined the intentions of nurses with 3 years of experience (of both nursing and psychiatry) when managing patients with a higher risk of violence. The data of 2 nurses obtained through role-play and interviews were qualitatively analyzed and classified into 36 codes, 11 sub-categories, and 3 categories. When listening to patients, the nurses sat in a chair, with the [intention of staying close and showing empathy], rather than directly facing them. They also treated patients with anger in a calm manner to avoid stimulation, as represented by [intention of controlling patients' anger]. The [intention of protecting oneself] explains that the

nurses also adopted measures to avoid patients' violent behavior, such as keeping a distance, while being aware of the possibility of an insufficient understanding of their backgrounds to produce some risk of their violent behavior. These categories summarize the intentions of the nurses with 3 years of experience when managing patients with a higher risk of violence. *Tottori J. Clin. Res.* 9(2), 103-108, 2017

Key words: 精神科看護師, 暴力, 対応の意図, 経験年数3年看護師, 若年看護師支援; psychiatric nurses, violence, intentions, nurses with 3 years of experience, support for novice nurses

I. はじめに

医療従事者のなかでも、精神科看護師は、患者の救急・急性期状態に出現しやすい暴力や攻撃に遭遇するリスクが高い¹⁾とされている。そのため、精神科看護師は暴力事例に関わる機会も少なくない。A病院でも、平成25年度、26年度ともに、暴力に関する診療科別報告件数が神経内科2件に対し、精神科では28件であり、神経内科と比較し精神科での暴力件数が多い。そのうち、部署配属年数の浅い看護師による報告が多い現状があった。

一般的に、経験の浅い、若い看護師は暴力を受けやすいとされている。B病棟では、6割が精神科経験5年未満の看護師であり、このことから、看護師が暴力を受けないための教育支援が必要であると考えられる。

そこで、B病棟の経験年数3年看護師において、暴力リスクがある患者への対応の意図を明らかにすることで、今後の教育支援に繋げることが出来る考えた。今回の研究で、経験年数3年看護師の暴力リスクのある患者への対応の意図を明らかにしたので報告する。

用語の定義

経験年数3年看護師: 看護師経験, 精神科経験年数共に3年の看護師。

暴力: 自分や他者に害を及ぼすような不当な力、または相手の意思に反して強制的に行われる行為。

II. 研究目的

ロールプレイを通して、精神科経験3年看

護師の暴力リスクのある患者への対応の意図を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究対象

A病院 B病棟に勤務の看護師経験, 精神科経験年数共に3年の看護師(経験年数3年看護師)のうち、同意の得られた者2名。

2. 研究期間

2016年8月から5か月間。

3. 研究場所

A病院 B病棟。

4. データの収集方法ならびに分析方法

1) 研究者が、ロールプレイの事例設定とプレテストを実施し、最終的な事例を設定した。

<事例>

30代女性。統合失調症にて薬物療法中である。被害妄想から暴力行為に至ることがあった。本人は入院を拒否したが、医療保護入院となった。現在は、入院して1週間になる。

小ホールで、作業療法士と共に個別作業療法中であった。表情の陰しさがあり、作業療法士に呼ばれた。患者は落ち着きがなく、興奮してきている様子であった。

2) 経験年数3年看護師2名には、設定した事例で各自1回、ロールプレイを行った。ロールプレイでの患者役は、全て研究者1名に固定して行われた。

3) 研究者は、ロールプレイの様子をビデオに録画した。

4) 研究者は、経験年数3年看護師とロールプレイを見ながら、気をつけたこと、意識したこ